

# 大阪医科大学 2016年度(後期)入学試験 解答速報 英語

2016年3月10日 実施

## 問題 I

- (1) 私たちが仕事を道具や機械にやらせるようになるたびに、私たちは自由になり、より高次の作業、つまりより高度な技能やより深い理解力、より広い物の見方を必要とする作業を遂行する段階へと進むのだ。
- (2) 人手を省く機器は、単に仕事や他の活動のある独立した一部を代わりに行うだけではない。それは、関与する人々の役割、態度そして技能といった、作業全体の性格を変えてしまうのだ。
- (3) 機械は何の誤りもなく作業を行い、どんな問題が起こってもそれに対処してくれるものと信じるあまり、私たちの注意力は散漫になる。
- (4) 人の脳は大量の情報を蓄積し、瞬時に見つけられるようにその知識を整理している。

## 問題 II

- (1) しかし、子供たちの示すこうした振る舞いは、自分自身にとって不利に働くように思われる。とりわけ、子供たちの無欲な振る舞いから利益を得る人々が、彼らの近親者ではない場合にはそうである。
- (2) 協力相手に不満を抱かせて対立し、自分の評判を落として将来得になる協力関係を損ないたくないから。(47字)
- (3) 他の類人猿から分かれた後、自らに有利に働く不公平を拒む感受性が発達したことは、ヒトの示す高次の公正感が後々生じる出発点となった。

### 問題Ⅲ

- (1) French people throw away between twenty to thirty kilograms of food per person per year, and the cost is estimated to be twenty billion euros annually.

[別解] The French throw away 20 to 30 kg of food products per capita a year costing an estimated 20 billion euros yearly.

- (2) Under the new law, supermarkets will have to take some action to prevent food waste.

[別解] Under the new legislation, supermarkets will have to take measures to prevent food waste.

- (3) Supermarkets, for example, will be forced to donate any unsold but still edible food to charity.

[別解] Taking an example, as for edible food goods which haven't been consumed, supermarkets will be required to hand them over to charitable organizations.

### 講評

大問Ⅰは技術への依存が認知に及ぼす影響に関するもので、形式は例年通り。大問Ⅱは不公平を回避しようとするヒトの性向に関するもので、前期同様説明問題が出題された。どちらも、内容は把握しやすいが、訳語の選択は難しい。説明問題は全ての要素を50字以内に収めるのに工夫が必要であつただろう。大問Ⅲは構成自体にそれほど難しいところはない。語彙力・表現力の差が点に反映されるが、大阪医科大学によく出題されるフレーズのトレーニングをしていれば対処出来たであろう。全体としては前期同様6割5分程度必要と思われる。

医歯学部進学予備校 **メビオ**

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ベルヴォア天満橋

TEL 06-6946-0109 FAX 06-6941-9416

<http://www.mebio.co.jp/>

